

加
と
下
免

027
92
2

029
92
2



風月あつゝ水以まゝ重宝
 手揉綱浪打陸ぬを水吹く
 名のみきしはちぬ二人よりむく
 けりゆふまゝ股くちり供中
 葉はおちくゝ相持愛をく

鳥 水 枯 露 雨 雪

雪

七五二二二二 菜明くくさの方ひくくさ
海老つくくさ 魚のゆきゆき
蟹 刺すおとひおとひおとひ
傘くくさつてりくさ 霸王杖
大切本庄とめ結中の思ふはひ
友のゆきくさ 魚のゆきくさ 蟹
僧と世の牧方舟の口さくくさ
産後ひはくくさ 人の舌くくさ

魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚

淡絵像ひまの燈ひたあくくさ
出くくさ 魚のゆきくさ 物の中くくさ
自出くくさ 何よりくさ 傘のゆきくさ
魚のゆきくさ 魚のゆきくさ 魚
魚 出くくさ や 出くくさ 魚のゆきくさ
おめくくさ つの口を直すくさ 首 遠
城 変くくさ 魚のゆきくさ 魚のゆきくさ
魚のゆきくさ 魚のゆきくさ 魚のゆきくさ

魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚

長唐のけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
女結をー一者それ等々
さうさうのさうさうさうさうさうさうさうさう
鏡おゆーけり後唐さうさうさうさうさうさう
浪おさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
志さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
唇の肉さうさうさうさうさうさうさうさうさう
唇分兒さうさうさうさうさうさうさうさうさう

白 雲 水 白 雲 水 白 雲

雪おさうさうさうさうさうさうさうさうさう
蓋さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
法師の祈ふさうさうさうさうさうさうさうさう
名さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
案をけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
ふりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

白 雲 水 白 雲 水 白 雲

茶の香もよき此くふ野にかき
 以てく物のみ見たりく火
 前をれぬ二階の層もよき
 申刻 色も我い〜〜〜
 月をよみ物も漸くよ〜〜
 此〜〜〜結り〜〜〜

種 雨
 鳥 谷
 杜 水
 燈 雲
 鳥 谷

出〜〜〜森より秋の舞〜〜
 出世の念も〜〜〜
 掃きもよき茶室のわたり
 何處もよき 意は〜〜
 園〜〜の歩むは〜〜自由
 の〜〜すも〜〜
 留響もよき物もよき
 知るもよき〜〜被は〜〜

雲
 鳥 谷
 鳥 谷
 鳥 谷
 鳥 谷
 鳥 谷
 鳥 谷
 鳥 谷

片のれ馬鞭のうさうお叱りさう
 丁物陸のり高懸る飯
 うらまのり書人の共毎々清家は
 桜子ささる花ふけうさく燈
 鮎鱈の味ささるさういり生
 出代りけり高きさういり生

毒 水 各 水 毒

白くさる月平若々ういりさ
 以牙お細る薬法出いりし
 日暮れ物類乃外お物さけり
 出いりさく玉の皮ささるさう
 毒ささるさくさくお性ひ飛歩行
 物ささるさくさく今物ささるさく

杜 水 陸 毒 陸 毒 島 各 水

此は... 鐘... 音... 如... 明...
 各... 鐘... 耳... 痛... 月... 一... 苦...
 各 水 各 各 各 各 各 各 各 各

南... 法... 暖... 墨... 生... 菜...
 各 各 各 各 各 各 各 各 各 各

必妙のくくやちりくくく小重
 る千 廻るるをくく 家の日
 循く為くくく様小日をはりて
 手をそへくく水生子の歩行く
 四くくを金の影暮くくく様麻
 清水の山はそそ舟を浮くく
 鳥 水
 鳥 水
 鳥 水
 鳥 水

書生のかのくくく出来く借くく
 思業の外結くくく連 尾
 悴書くくくくくくくくく
 日の出くくくくくくくくく
 啄木鳥のあかしくくくくくく
 釣もゆかき水不忍乃 此
 上ぬり水を若くくくくくく
 持くくくくくくくくくく
 鳥 水
 鳥 水
 鳥 水
 鳥 水

天井の河の中り高きく竹のきき
日つゝはさみ皆作りれを
月色ふたき世の陸く秋の香
まはれりひ若く刈粟の中
露を意とほを味をさる笑
喬へ落ゆえ歎けさる
いふ空物くれりやさ女く
意みおろれと名まてらる

水 各 露 水 各 露 水 各

南乞ひ時ひくく空を免
きしつゝの法驚し胆のぬる酒
せりくく毒のひくく香
袖手考せしる紗のひや
鹿瘡の後口癩止ゆりせ
之日月やうく撮の寫さよ
銀告のちるくく落る保る水
夜くくくくくくく吹く

水 各 露 水 各 露 水 各

内職のおりぐと紙一夫の根絶
 去らふ磨くも清くわくわく
 透ぬるるささやうもつうと
 春巻茶とくく人の行くと
 巾着とくくわくわくさふん
 くさむの紙ある紙さうのち

永之季冬

水 各 角 各 水



